

令和7年度 田原市議会広報広聴委員会 行政視察報告書

日 程 令和7年7月17日（木）～7月18日（金）

視察先 1 「議会広報の取組について」（神奈川県開成町）

2 「広報広聴活動の取組について」（静岡県裾野市）

参加者	委員長	内藤 喜久枝	副委員長	真野 尚 功
	委員	古川 美 栄	委員	鈴木 和 基
	〃	中野 哲 伸	〃	山上 勝 由
	〃	柳 元 浩 幸	〃	中村 健太郎
	事務局	小久保 乃衣美		

1 「議会広報の取組について」（神奈川県開成町）

令和7年7月17日（木） 13:30 ～ 15:20

対応者	開成町議会議長	山 本 研 一 氏
	副議長	星 野 洋 一 氏
	広報広聴常任委員会委員長	井 上 慎 司 氏
	議会運営委員会委員長	武 井 正 広 氏
	広報広聴常任委員会委員	寺 野 圭 一 郎 氏
	開成町議会事務局	佐 藤 久 子 氏

（1）概 要

開成町は神奈川県西部の足柄上地区中央部に位置し、町域は東西 1.7km、南北 3.8km、総面積 6.55 km²と県内で一番面積が小さな町である。人口は約 1 万 9 千人（R7.4.1 時点）であり、令和 2 年の国勢調査における人口増加率は 7.7%で全国 16 位、年少人口割合は 14.8%で県内 1 位となっている。昭和 30 年 2 月に酒田村と吉田島村が合併して誕生し、令和 7 年で町制施行 70 周年となった。

令和 7 年 7 月時点で町議会議員は 12 人。常任委員会は、総務経済（6 人）、教育民生（6 人）、広報広聴（11 人）の 3 委員会。他に議会運営委員会（6 人）がある。

開成町議会では広報紙とウェブサイトの両輪で広報改革を推進しており、「読む」から「見る＝魅せる」改革を行っている。

議会広報紙は令和 3 年 5 月から改革をはじめ、一人でも多くの町民に手に取ってもらいたいという信念を持ち、毎号デザインや構成に変化をつけて発行している。また、令和 4 年 5 月 1 日号からは、読ませる広報に注力するのではなく、読んでもらう大切さを残しつつ、議員が動画で話して伝えた方がよい情報はウェブサイトが発信する等、広報発信のすみ分けをするため、紙面サイズを A4 版からタブロイド判に変更した。

議会独自のウェブサイトは令和 4 年 9 月に開設した。コンテンツを整理し、2 クリックで得たい情報にたどりつけるように工夫がされている。その他、毎月変わるトップページのムービーや、議員紹介ページではクリックすると議員が動き、議員自ら話

し出す自己紹介ムービーが掲載されている。一般質問のページは **Before**（一般質問概要動画）、**Question**（議会インターネット録画配信）、**After**（一般質問終了後のインタビュー）という形式になっており、**Before** は一般質問の概要を 1 人約 20 秒でまとめた動画となっている。

令和 5 年度からの新たな取組として、広報を共同で作成し、若い世代に関心を寄せてもらうためにキッズモデルの募集を開始しており、ウェブサイトや広報紙に登場している。

（２）参考になった点

- ユーチューブの動画作成について勉強になった。また、SNS の発信方法についても町民目線が生かされていると思った。
- ユーチューブショート動画で関心を引き本編へ誘導する手法は、若年層や忙しい層へのアプローチとして有効であると感じた。また、各議員が工夫を凝らして、動画を徐々にブラッシュアップしており、まずは導入することの大切さを感じた。
- 一般質問では、事前の質問ダイジェスト、質問録画動画、質問直後動画を配信し、見る側の興味を引く工夫がされている。
- 「ギカイだより」において、毎号デザインや構成に変化をつけ、A4 サイズからタブロイド判への変更など、読みやすさを追求している点が参考になった。
- 開成町のように色使いやレイアウトを工夫し、市民にとって見やすく、理解しやすく親しみのあるウェブサイトを目指せたらと感じた。
- 住民の方々の目にいかにして留めるか、観てもらうかを議会全体で（事務局も含む）考え、実践している。
- 読ませるではなく魅せる広報、発信を意識すること。
- 小学校への出前講座を行っている。
- 議場をフリースペースのように活用し、生徒・学生に議会を身近に感じさせている。

（３）所 感

- ユーチューブの活用に関しては、デジタル技術や端末操作の苦手な議員もいると思うので、フォローアップの体制を整えること大切である。
- 動画配信の工夫も素晴らしく、本市議会での今後の動画配信をする際の参考になった。
- どのように議会と市民との距離を近づけるのか、今一度考えてみたい。
- 単に情報を発信するだけでなく、いかに市民に興味を持ってもらい、議会を身近に感じてもらうかという視点に立って、多様な手法を駆使している点に熱意が感じられた。本市議会もこれらの先進的な取組を参考に、動画の活用、ウェブサイトの刷新、市民参加型の企画、そして広報活動の専門性を図ることで、市民と議会との

距離を縮め、より開かれた議会を目指すことができると感じ、大変勉強になった。

- 日曜議会など、市民が傍聴しやすくするのも一つの広報活動と感じた。
- 広報紙を「読む」から「見る＝魅せる」改革を行っており、こうしたところは本市議会でも今後の課題だと感じた。
- 自分たちでできないのであれば、開成町のように委託先や人材を登用することが大切である。自分たちにできることとできないことを選別することも必要だと感じた。その上で、本市議会として何が必要かという議論は改めて必要だと感じた。
- 一般市民や子どもたちに向けた議場の開放を本市としても考えたい。



2 「広報広聴活動の取組について」(静岡県裾野市)

令和7年7月18日(金) 10:00 ~ 11:45

対応者 裾野市議会議長	井手悟氏
広報広聴委員会委員長	増田祐二氏
広報広聴委員会副委員長	勝又豊氏
裾野市議会事務局	鈴木直美氏
〃	勝又友揮氏

(1) 概要

裾野市は静岡県の東、富士山のふもとに広がり、東には箱根外輪山、西には愛鷹連山と豊かな自然に囲まれた工業のまちで、市域は東西 23.5km、南北 23.km、行政面積は 138.12 k m²、人口は約 4 万 9 千人 (R7.1.1 時点) である。

令和7年4月時点で市議会議員は 19 人。常任委員会は、総務 (7 人)、厚生文教 (6 人)、産業建設水道 (6 人)、広報広聴 (6 人)、予算決算委員会 (19 人) の 5 委員会。他に議会運営委員会 (8 人) がある。

もともとは議会だより編集委員会として、議会だよりの編集等を行っていたが、広報広聴を一体的に行う必要があるとの意見があり、令和2年から常任委員会となって、名称も広報広聴委員会に変更された。

裾野市議会ではフェイスブックとユーチューブを活用した情報発信を行っている。フェイスブックの投稿については全て議会が行っており、内容は議長の公務や定例会の予告等となっている。ユーチューブの投稿については事務局が行っており、本会議に関する動画を全て投稿している。

意見交換会については、広報広聴委員会が主催するものや、地域別のもの、常任委員会が行う各種団体を対象とした分野別のものがある。また、より広く市民の意見を聴くために昨年度から「出張議会」と題し、地域でのお祭りで議会のブースを設け、市民との意見交換を行っている。

議会だよりについては、題字を市民から募集したり、市民インタビューのページを設けたりするなど、より多くの市民の方に読んでもらえるように工夫している。

(2) 参考になった点

- 分野ごとに委員会別で住民との意見交換会を実施していた。意見交換会のやり方としては地域別のものよりも活発に行っていると感じた。
- 議会報告会から意見交換会に移行し、さらに各常任委員会で「分野別意見交換会」の開催を要請しており、より専門的・具体的なテーマで市民と意見を交わす機会となり有効であると思った。
- ユーチューブで情報発信をする目的の中に、アーカイブとしての目的がある。
- そもそもユーチューブや SNS の登録者やフォロワーを伸ばすことなどは考える必要がないという考え方は参考になった。あくまでもアーカイブを残す仕組みとして考えるべきである。

- 本会議の動画配信は SNS を活用し、プッシュ式にしている。
- SNS で情報発信することで、議会広報紙の紙面を減らしている。
- 外部委託はせず、議員・議会事務局でできる最大限のことを行う点が参考になった。

(3) 所 感

- 議会公式フェイスブックで随時情報発信しているとのことで、本市議会も取り入れるとよいと思った。
- ホームページ上のみではなく、ユーチューブで一般質問の映像などを発信していくのは良いと思った。また、外部委託せずに自分たちでやっており、本市議会もこのようにやるのか、開成町のように業者に委託するのかは今後の課題であると感じた。
- 本市の議員自身の SNS、動画配信（デジタル全般）に関する大きな成長が必要と感じた。
- 議員とたはらトークを各委員会の設定したテーマに基づいて開催しても良いと思った。
- 本市でも各議員が意見交換をしているが、裾野市のようにヒアリングシートのようなものに記録をし、共有ができればと感じた。
- 議会広報紙の表紙への市民参加は、身近に感じていただける方を増やしていくと思う。
- 議員とたはらトークは改善の余地があると感じた。全員参加も大切だが、分野別意見交換会や地域別の意見交換会の回数を増やすことに注力すべきか、何が最善かわからないので、トライ&エラーを繰り返していくことが結論だと感じた。
- 裾野市議会の広報広聴活動は、市民に「開かれた議会」を目指し、情報発信と広聴活動の両面で工夫を凝らしている。これらの取組を参考に、ICT を活用したより多様な情報発信、そして市民が参加しやすい対話の機会を増やすことで、市民の参画意識を高め、議会への関心と理解を深めることができると感じた。

